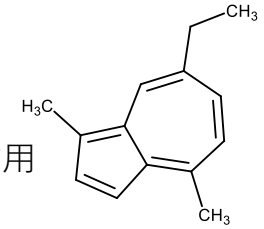
薬用植物園だより

2025年 5月

ハーブティーで有名！うがい薬はご存知？ カミツレ（キク科）

Matricaria chamomilla L.

部位　頭花
生薬名　カミツレ
成分　マトリシン→（高温でカマズレンに）
薬理　健胃作用、抗消炎作用、抗けいれん作用
用途　発汗、駆風、消炎、健胃、鎮痛薬
外用：皮膚疾患



カマズレン(青色)

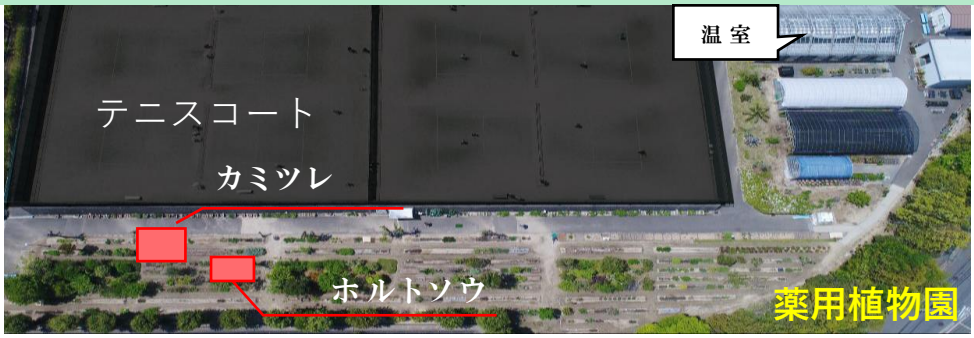
ヨーロッパ原産の一年草または二年草。暑さには弱いですが、日本の環境に適応でき、公園や花壇でも植栽されています。5月から10月にかけて写真のような白い花を咲かせます。当園では秋に発芽したものを定植し、春に開花します。花には強い香りがあり、生薬やハーブティーなどに利用されます。また、カモミールやジャーマンカモミールと呼ばれることもあります。昔は日本薬局方にも収載されていましたが、現在では日本薬局方外生薬規格の収載となっています。西洋では古代より重要な薬草とされ、感冒、胃炎、腸炎、生理不順等に用いられてきました。さらに不眠や不安感を鎮めるとされています。花を水蒸気蒸留すると、アズレン骨格を持つ化合物を含む青色の精油が生成されます。その中でもカマズレンという化合物には消炎効果があり、現代医療においても、青色をしたうがい薬や軟膏（アズノール含嗽液・軟膏）が利用されています。

ホルトソウ（有毒）（トウダイグサ科）毒性の強い生薬。バイオディーゼル燃料にも

Euphorbia lathyris L.

部位　種子
生薬名　続随子（ゾクズイシ）、千金子（センキンシ）
成分　多数のラチラン型ジテルペノイドが含まれる
薬理　強い瀉下作用、利尿作用
薬能　峻下逐水薬
漢方　続随子丸　毒性が強いので日本では利用されない

東南アジア、ヨーロッパ南部の原産と考えられる一年草もしくは二年草。和名のホルトは「ポルトガル」から渡来したことから短く訛り「ホルト」となり、ホルト草の名前が付いたという説があります。カボチャが「カンボジア」から渡来したことに由来するのと同じです。トウダイグサ科の*Euphorbia*属植物には有毒植物が多く、茎の切り口から出る乳液は、皮膚炎や水疱などを引き起こすので注意が必要です。ちなみにポインセチアも同属の植物です。漢方では種子を用いて、その薬能は、峻下逐水薬（しゅんげちくすいやく）と言い、激しい下痢を引き起こして治療するものになります。種子は油分が多く、生薬として利用する時は油を圧搾してから用いられます。また、油はバイオディーゼル燃料の主要候補としても有名で大規模で栽培されている様です。



ホームページでも
ご覧いただけます

発行：大阪医科薬科大学 薬用植物園　Osaka Medical and Pharmaceutical University Medicinal Plant Garden